二〇一三年九月二四日（火）
～一二月八日（日）

知ってますか？

# 大和川のおいたち

大和川は、どのように
変わってきたのか・・・

同時開催〔特集展示〕
天誅組・新選組と柏原

史跡高井田横穴特別公開
二〇一三年一〇月一九日（土）
一〇時～一五時／申し込み不要

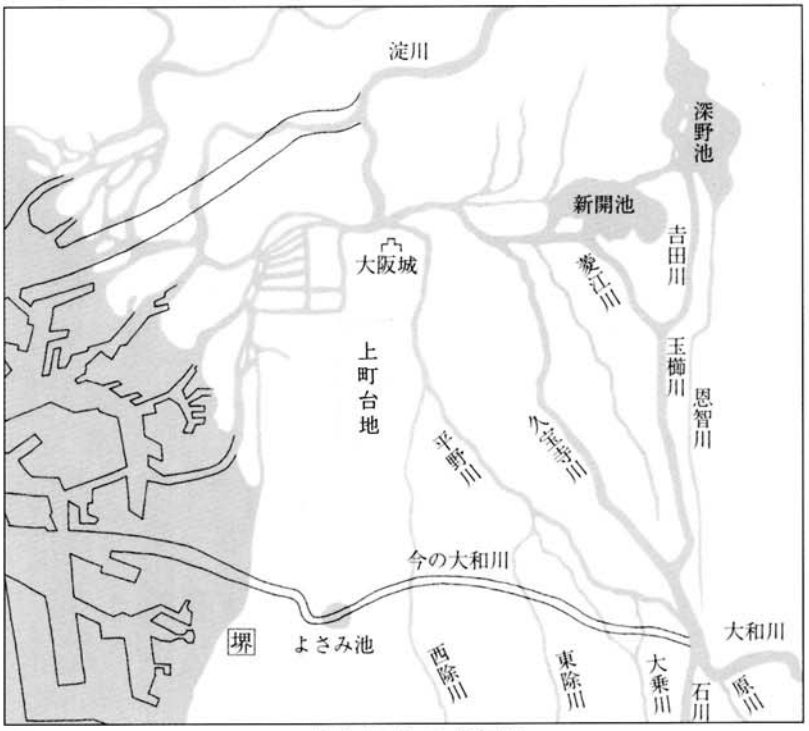
## 柏原市立歴史資料館

月曜休館・入館無料
開館時間　九：三〇～一六：三〇
交通　ＪＲ大和路線高井田駅から徒歩五分
近鉄大阪線河内国分駅から徒歩一五分
大阪府柏原市高井田一五九八－一
電話　〇七二－九七六－三四三〇

堤切所之覚附箋図

## 大和川のつけかえ工事

今から 300 年以上前の宝永元年（1704）に、大阪でそれまでになかったような大きな工事が行われました。大和川のつけかえ工事です。それまでの大和川は、久宝寺川（今の長瀬川）、玉櫛川（今の玉串川）、平野川などの川に分かれて北、または北西に流れていました。それらの川は、大阪城の近くで一つになり、もとの淀川（今の大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな大阪平野を流れているため、大雨が降って水がふえるとうまく水が流れず、なんども洪水をおこしていたのです。

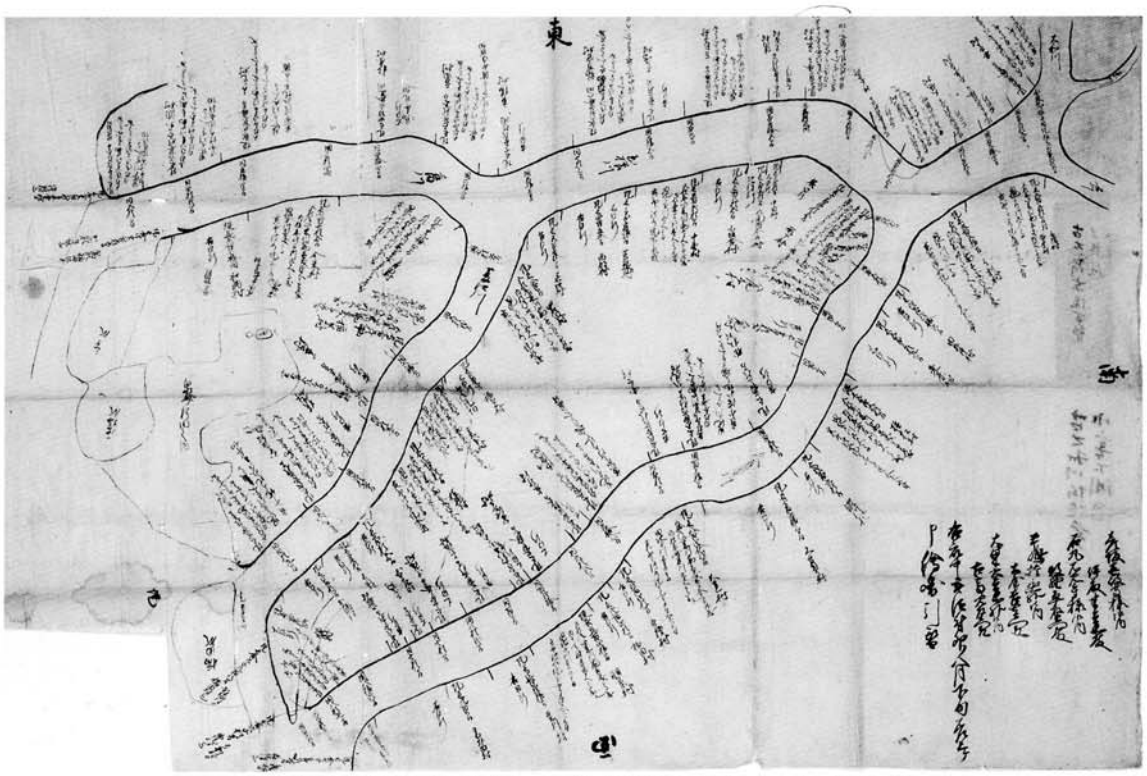


つけかえ前の大和川

そこで、洪水で苦しむ人たちが力を合わせて、大和川をつけかえてほしいとお願いするようになりました。しかし、つけかえに反対する人たちも多く、幕府（国）もなかなかつけかえを認めてくれませんでした。そのため、つけかえを求める運動から少しでも洪水がなくなるようにしてほしいという運動に変わり、運動に参加する人たちも少しずつ減っていきました。そして、だれもがつけかえをあきらめたころに、急につけかえ工事が行われることになりました。

つけかえ工事が行われることに決まった理由はいろいろあったようですが、幕府がこれからのことを考えると、つけかえたほうが得だと考えたようです。つけかえをのぞんでいた人たちは、とても喜んだようです。しかし、つけかえに反対していた人たちは、急につけかえられることになって、とてもおどろいたようです。つけかえに反対する人たちは、新しくつくられる川の近くに住んでいた人たちでした。その人たちは、新しい川をつくるとたくさんの田や畑がなくなってしまう、こんどは自分たちが洪水で苦しむようになるなどの理由で反対していたのですが、つけかえのあと、やはりいろいろな問題がおこって苦しむことになっています。

つけかえ工事は、半分を幕府が行い、半分をいくつかの藩（地方）が分担して行われました。1704 年の２月に工事がはじまり、10 月には新しい大和川が完成しました。今のような機械もなかった時代に、たった８か月で完成したことはおどろきです。そのあいだ、毎日１万人くらいの人がはたらき、７万両以上のお金がかかったようです。そのころの１両は今の 20 万円くらいのねうちがあったと考えられていますので、今のお金で考えると、140 億円以上のお金がかかったことになります。このようにして、新しい大和川がつくられました。




古大和川附換前水害下調図（堤防比較調査図・中家文書）

### 中甚兵衛（なかじんべえ）

大和川つけかえ運動の中心になったのは、今米村（いまごめむら）（今の東大阪市）の中甚兵衛でした。甚兵衛の残してくれた資料から、つけかえのようすがいろいろとわかります。甚兵衛は 19 歳で江戸（えど）へ行き、34 歳で今米村へもどってきてからは、つけかえ運動を中心になって進めたようです。

しかし、思うように運動は進まず、甚兵衛はとても苦労したようです。ようやくつけかえ工事が行われたとき、甚兵衛は 66 歳になっていました。それでも大和川のことをよく知っているということで、甚兵衛はてつだいをたのまれて、工事にも参加しています。つけかえ工事がおわったあと、甚兵衛はお坊さんになっています。そして、92 歳まで長生きしました。甚兵衛にとってはたいへんな人生だったと思いますが、洪水からみんなをまもりたいという思いでつづけることができたのでしょう。

### つけかえ後の大和川

大和川がつけかえられたあと、もとの大和川には長瀬川（ながせがわ）や玉串川（たまくしがわ）など小さな川だけを残して、あとは田や畑になりました。これを新田（しんでん）といいます。新田は、幕府（ばくふ）にお金をはらった人だけがつくることができました。幕府がつけかえ工事でつかったお金は３万７千両（りょう）ほどで、新田をつくるためにはいってきたお金が３万７千両。つまり、幕府がつけかえ工事でつかったお金は、ほとんどもどってきたのです。しかも、つけかえ前よりも田や畑の面積（めんせき）は大きくなり、そこからは年貢（ねんぐ）（税金（ぜいきん））もはいってきます。幕府がつけかえたほうが得だと考えた理由は、これだったようです。新田では、わたがたくさんつくられ、わたからつくられたじょうぶな河内木綿（かわちもめん）は、人気があったようです。

## 大阪平野のうつりかわり

つけかえまでの大和川は、なんども洪水をおこしていました。どうして洪水がくりかえされたのでしょう。大阪平野とそこを流れる大和川がどのようにうつりかわってきたのかをみることによって、考えてみましょう。

今から２万年くらい前、氷河期のおわりごろで、とてもさむく氷が多かったので、海面はかなりひくくなっていました。大阪湾や瀬戸内海にも海はなく、大和川や淀川の水をあつめた川が、大阪湾から太平洋に流れていたようです。

氷河期のあと、少しずつ気温が高くなり、氷がとけて海面も高くなってきました。そして、5,500 年くらい前には今よりもあたたかく、海面も高くなり、大阪平野には海が広がっていました。今の東大阪市や八尾市まで海が広がっていたのです。これを河内湾とよんでいます。今の大阪市の中心部がある上町台地が、半島のように北へのびていました。

そのあと、また気温が下がって海面が低くなり、河内湾には海水がはいらなくなりました。これを河内湖とよんでいます。そのうえ大和川や淀川がたくさんの土や砂を運んでくるため、なんども洪水をおこしながら、少しずつ大阪平野がつくられていきました。それでも、2,000 年くらい前でも大きな河内湖が広がっていました。

それからも大和川は洪水をくりかえし、河内湖も少しずつ小さくなっていきました。しかし、くりかえされる洪水によって大きな大阪平野がつくられ、そこから米などがとれるようにもなったのです。河内湖は、大和川がつけかえられた 300 年前でも、新開池や深野池として残っていました。このように、とても長い時間のなかで、大阪平野がつくられていき、そのために大和川も大きなやくわりをはたしてきたのです。

２万年前の大阪平野

5,500 年前の大阪平野

2,000 年前の大阪平野

※写真は大阪文化財研究所提供

（大阪市文化財協会編『大阪遺跡』2008 年より）